

「この街」のために。「あなた」のために。

そうこう

S O U K O U

2016年7月号(月10) 発行：社会医療法人 壮幸会 行田総合病院



VOL 021

消化器内科とは？

高島医師

肝臓のいろはを知ろう。

橋本医師

COLUMN & NEWS & TOPICS

7月

社会医療法人 壮幸会

行田総合病院

TEL: 048-552-1111



病棟で患者さまにインフォームドコンセントを行う高島消化器内科部長。

長く続いたり、よくなっても再び出現したり、よく考えてみるとずいぶん昔からある、といった場合、機能的胃腸症という疾患である可能性があります。機能的胃腸症とは最近機能的ディスペプシア、英語で Functional dyspepsia(FD) と呼ばれています。

機能的ディスペプシア（以下FD）とは一体どんな疾患なのでしょう？ FDは疾患ではありますが、もたれ、むかつき、胃の痛みなどの症状が出現する体質的な病態のことを言います。胃潰瘍、胆石症などといった器質的な疾患ではなく、症状を有するだけの機能的な疾患です。そこが一番大事なところで、重大で何か命にかかわるような器質的な疾患ではないということです。

よってFDの診断は、検査をして色々な疾患がないことを証明することになります。血液検査をして異常がないこと、腹部エコーや腹部CTなどを施行して、胆のうや肝臓や膵臓などに炎症や腫瘍がないこと、内視鏡検査にて食道や胃や十二指腸に炎症や腫瘍がないこと、以上を証明して何も疾患がなかった時にFDということになります。なんと国民の1割以上の方がこの疾患FDを持っていると言われていています。実は非常にポピュラーな疾患なのです。

もたれ、むかつき、胃の痛みがあって病院に受診され、検査をして異常がないから大丈夫と言われ特に治療がなされず終了となっている方もいます。しっかり症状はあるので治療をなされないで苦しんでいる方も多いのです。

もたれ、むかつき、胃の痛みのある方、それがなかなか治らない方、一度消化器内科に受診してみてください。

■消化器内科 外来担当医師表

行田クリニックB館	月	火	水	木	金	土
午前	橋本医師	大坂医師	南雲医師	芹澤医師	南雲医師	橋本医師
		芹澤医師	橋本医師		高島医師	田中医師
午後	大坂医師		高島医師			
	南雲医師					

◆**症状があるのに、検査をしても異常がない病気があることを知っていますか？**

もたれ、むかつき、胃の痛み、は私たち誰もが時々経験する症状です。

店頭で市販されたり、TVのCMでも宣伝されたりしている胃腸薬にも、もたれ、むかつき、胃の痛みと効能が書かれているのをよく目にしたり、耳にしたりすることでしょう。実際、おなかの風邪は誰もが時々罹患し、症状もむかつき、嘔吐、胃のあたりの痛み、下痢などです。急性の感染症なので一過性であり、一週間前後で症状は改善し治る疾患です。しかし、もたれ、むかつき、胃の痛みといった症状が一過性でなく、長



橋本医師による外来診察風景（橋本先生による肝臓のお話しはP4で）。



消化器病棟でカンファレンス中の高島医師。この日は初期研修医と共に。

本院の消化器内科は、5人の常勤医師と1人の非常勤医師で月曜日から土曜日まで外来を開設し、いつでも受診できる体制です。

内視鏡センター（そうこう6月号参照）を併設し、24時間稼働できる内視鏡検査体制も整備しています。入院も常勤医師による診療体制を充実させています。

当科は、がん診療指定病院の消化器内科として悪性腫瘍（ガン）のみならず、良性疾患（急性胃腸炎、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、急性膵炎、急性胆管炎、ウイルス性肝炎、肝硬変）など、広く消化器疾患全般を診療しています。また地域の医療機関からの紹介や、救急指定病院として救急の消化器疾患の受け入れにも力を入れています。

◆**行田総合病院の消化器内科。**

「おなかが痛い」「吐き気がする」「下痢」などの症状は、おなかの風邪（急性ウイルス性胃腸炎）の時に誰もが経験する症状です。

その他にも、おなかがもたれる、食欲がわからない、胸焼けやげっぷが出る、便がでない、血を吐いた、血便が出た、体が黄色くなったなど、そのような多彩な症状を診療する診療科が消化器内科です。

消化器内科では、口から食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門までの消化管と肝臓、胆嚢、膵臓という腹部臓器と非常に幅広い領域を診療します。

また症状を診療するだけでなく、予防医学、つまり人間ドック、健診などで、早期の消化器の病気を発見するための検査も行っている診療科です。

◆**消化器内科とは？**

消化器内科

Gastroenterological medicine

5名の常勤医師が日々の診療を行っている消化器内科の紹介と、身近な消化器疾患について消化器内科部長・高島先生にお伺いしました。



救急センターで当直を務める大坂医師。



消化器内科・外科の合同カンファレンス。



肝臓の

いろいろを知ろう。

橋本良明

YOSHIAKI HASHIMOTO

消化器内科/医師

◆この記事をお読みになる前...

もしあなたが左記の条件をすべて満たしているのであれば、この記事はお読みになる必要はないかもしれません。

- ① 毎年検診を受けている。
- ② 今まで、肝機能異常を指摘されたことが1回もない
- ③ これからも定期的に検査を受けるつもりである。
- ④ 過去に最低1回はB型肝炎、C型肝炎の検査を受けて陰性だった。
- ⑤ 飲酒習慣はない。
- ⑥ BMIは25未満である。
- ⑦ 定期的に使用している薬剤はない。
- ⑧ 定期的にご利用しているサプリメントはない。
- ⑨ 検査をして糖尿病はないと言われている。
- ⑩ 検査をして高脂血症はないと言われている。

いかがですか？ ひょっともYes！
と言いつれない項目があるようでしたら、この記事是非お読みください。も

し10項目オールクリアされた場合でも、「最後に」だけは目を通してくださいね。

◆沈黙の臓器

肝臓は、普段その存在を意識しません。最近では肝臓の調子がいけないあとか、今日は肝臓の右がちよっと痛むとは言いませんね。肝臓には、痛みを感じる神経がないため、たとえ肝臓に腫瘍ができたとしても症状は出ません。出血をしたり、周囲の臓器や血管に浸潤してはじめて自覚症状が出てきます。また肝臓は予備能力が高く、肝機能が半分に低下してしまっても悲鳴をあげません。痛みを感じず、よほど悪くなるまで症状が出ない...。肝臓が「沈黙の臓器」とも言われているゆえんです。

肝臓を構成する細胞の中で、肝細胞はもっとも割合が多く、肝臓という化学工場の主役です。肝細胞の中には数百種類もの酵素が含まれ化学工場としての機能を発揮しています。肝細胞が壊れると、酵素が細胞の外に漏れ出て、血液の中に入ります。その酵素の血中濃度を測るこ

とで、肝臓の障害程度を知ることができま。代表的な酵素として、AST・ALTという酵素があります。これは以前GOT・GPTと呼ばれていました。自覚症状がなくてもこのAST・ALTの値を知ることが、肝臓に問題ありと知ることが出来ます。AST・ALTを私は沈黙の臓器である肝臓の「心の声」と呼んでいます。

◆心の声

AST・ALTは非常にポピュラーな血液検査項目で、ほとんどの住民検診や健康診断に含まれています。通常の診療でも、測定する機会が多い検査項目です。いろいろな場面で肝臓の心の声を聞くチャンスがあります。

しかし、AST・ALT異常を指摘されても、疲れやすいとかないからほっとこうとか、私はアルコール飲まないから大丈夫とか、病気が見つかるのが心配とか、前から言われているからいいや、などと、精密検査を受けない方がいいやっています。これは非常に残念なことです。

唯一知る方法はウイルス検査を受けることです。

◆肝炎ウイルス検査

埼玉県は委託した医療機関（病院・診療所）で、無料の肝炎ウイルス検査を実施しています。AST・ALT、血小板は値が変動しますので、異常の程度が軽いと、たまたま正常を示すこともあり、本来ならば複数回検査して判断すべき検査です。一方、肝炎ウイルス検査は基本的には一生に一回受ければよいのです。

ウイルス性肝炎は現在ほぼ治る病気になってきました。しかし、ウイルス性肝炎であることに気づかなければ、治療を始めることさえできません。まずは肝炎ウイルス検査を受けましょう。

◆最後に

さて、ながながと述べてきました。もしかしら長い文章に嫌気がさして、この「最後に」からお読みになっている方

昔は、肝臓が悪い人非大酒飲み、という「常識」もあったようです。現在、肝臓の病気には、①B型肝炎、C型肝炎などのウイルス性肝炎、②アルコール性肝障害、③肥満や高脂血症、糖尿病などと関連深い非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）、④免疫異常に伴う肝障害、⑤血管異常に伴う肝疾患、⑥薬剤性肝障害、⑦先天性肝疾患など、いろいろあります。頻度的には脂肪性肝障害やウイルス肝炎が多いのですが、実際のところ精密検査をしないとわかりません。

AST・ALTの数値は変動します。異常を指摘されても次の検査で正常となることも珍しくありません。正常値が出たから良かった、心配ない、ではなく、僅かでも心の声が聞こえた時は、何故その異常値が出たのかを見つける必要があります。そのためには専門医の診察を受けることをお勧めします。

◆地区拠点病院

平成20年に埼玉県は肝疾患診療に関する中心的な役割を担う「肝疾患診療連携

もいるでしょう。でも安心してください。最低限のチェック項目を厳選しました。もし、以下の項目のひとつでもYes！があるようでしたら、一度専門医への受診をご検討ください。

- ① 健診で肝障害有りと言われていたことがあるが、精密検査をしたことがない。
- ② 今までC型肝炎と言われたことがあるが、副作用が嫌で治療していない。
- ③ 今までB型肝炎と言われたことがあるが、継続的な診療を受けていない。
- ④ アルコール性肝障害と言われて禁酒したが肝機能が良くならない。
- ⑤ 脂肪肝と言われて体重を減らしたが肝機能が良くならない。

いかがでしょうか？ 専門医を受診する際、他の医療機関に通院中であれば、先にも述べたように、紹介状をいただくようにしましょう。

「一人でも多く、一日でも早く」より健康的な日々が送れるよう願ってやみません。

拠点病院」として埼玉医科大学病院を指定しました。更に県内を10区分し、地区ごとに肝疾患専門医療機関としての「地区拠点病院」を16施設定めています。行田市は熊谷市、深谷市、本庄市、児玉郡とともに県北地区に含まれ、同地区の地区拠点病院に熊谷総合病院と、行田総合病院が指定されています。県のホームページには肝臓病診療が可能な医療機関、肝臓学会や消化器病学会ホームページには各学会の専門医のリストが公開されています。

専門医を受診する際、非常に大事なことがあります。今まで診療を受けている医療機関、あるいはかかりつけ医に紹介状（診療情報提供書）の発行を依頼することです。「紹介状を書いてほしい」と言い出しにくいという話をよく聞きます。しかし今までの経過がわからないと、診断に至るまで時間がかかってしまいます。また診断がついて治療方針が決まったら再びかかりつけ医の先生に日々の診療をお願いすることもありますので、黙って専門医を受診するのはお勧めできません。

◆肝臓のASAT

肝臓病が存在しているてもAST・ALTが正常のことがあります。肝炎から最終的に肝硬変になった時、AST・

ALTが正常になることがあります。予備能があるため、肝硬変になっても症状が出ず、心の声（＝AST・ALTの異常）も聞こえません。この場合、肝疾患を見つける方法として「血小板」検査があります。血小板は止血機能を持った血液細胞の一種であり、肝疾患とはあまり関係がなさそうですが、肝臓の線維化が進むと、その程度に応じて血小板数が低下してきます（詳しい機序は省略します）。

血小板はAST・ALTと同様、検診などでよく検査される項目です。低値が出た場合、その原因として肝疾患も考慮に入れなければなりません。

◆心の声が聞こえない

ここまでAST・ALT、血小板などの肝臓の心の声を聞きましょうというお話をしてきました。実はそれだけでは十分ではありません。

肝炎ウイルスに感染していてもAST・ALT、血小板が正常のことがあります。いわゆるキャリアーという状態です。AST・ALT、血小板は肝炎の程度を反映しますので、ウイルスに感染しているものの、まだ肝炎を起していないキャリアー状態をチェックできません。

それではどうすればいいのでしょうか？



第18回救急勉強会
当院会議室



2016年5月25日(水)

林副院長による救急勉強会

は、『泌尿器科疾患における救急医療について』をテーマに開催。「泌尿器科の救急疾患とは?」「救急隊の対応ポイント」「搬送後の経過について」など、約1時間の講義となり、20名を超える救急隊員にご参加いただきました。

第1回感染防止対策勉強会
当院会議室



2016年6月7日(火) 他全3回

「いつでもカンペキ手指衛生」

をテーマに全職員を対象に開催。手指衛生の必要性と目的、当院の現状、正しい手技とタイミング、ハンドケアについて、感染管理認定・平看護師による講義が行われました。

前期医療安全対策勉強会
当院会議室



2016年5月17日(火) 他全2回

言語的メッセージを正確に伝えるために。

医療安全対策委員会主催の前期勉強会が全職員を対象に開催されました。『コミュニケーションって大切 ~話を通じない・伝わらないとはサヨナラ~』をテーマにコミュニケーションの基本構造、メッセージを伝える方法、医療現場での基本、メッセージ受け取りに関わるメカニズムと加齢の影響、気をつけること、妨げとなる要素、言葉にすることの重要性など、医療従事者として円滑なコミュニケーションを行うために必要な情報がたくさん盛り込まれた勉強会となりました。

新人看護師集合研修
部署配属後の技術トレーニング



2016年5月26日 他毎月

12誘導心電図、生体監視モニターの使い方を学ぶ。

当院の新人看護師は、4月末に各病棟への配属がスタートしました。実務に就いてからも毎週集合研修として技術トレーニングが行われています。この日は『バイタルサイン(生体機能管理)』と題し、12誘導心電図の捉え方や生体監視モニターの使い方を学びました。臨床検査技師・臨床工学技師や先輩看護師による丁寧な指導に熱心に耳を傾け、完璧に技術を習得できるように個々が機器に触れ、真剣な眼差しで操作を行いました。

ドクターやナース、コメディカルの日常、大げさにいえば人生観まで。
好評につき、毎号連載中!

関東『道の駅』めぐり制覇!



看護副部長
鈴木厚子

看護部の目標を掲げ、それに沿った看護活動を引率する。時に厳しく時に優しく、全職員を見守るお母さんの存在。

ゴールは千葉県オライはすぬまでした。主人と平成20年10月から回り始めた、関東「道の駅」スタンプラリー125カ所目です。平成26年6月29日快晴の空の下でイベントを開催しており、大太鼓に出迎えられました。トウモロコシと赤魚を買い、水出しコーヒーを味わい、道の駅スタンプブックの最後のページに「制覇」の記念スタンプを押してもらいました。

茨城県9カ所、栃木県15カ所、群馬県18カ所、埼玉県18カ所、千葉県20カ所、東京都1カ所、神奈川県2カ所、山梨県16カ所、長野県26カ所の合計125カ所です。

スタートは平成20年10月12日。道の駅はにゅうでした。特産物、地物の野菜や果物を選び周囲の環境を満喫し、スタンプを押す喜びを噛み締めながら、「次回はどこに行く?」と会話が弾みます。主人の運転する車に揺られ、帰り道はコックリコックリできました。

秩父の大滝温泉は、湯量も多く透明なまったりとしたお湯でした。お風呂上りに黒くて風味のある田舎蕎麦を食べました。長野県大谷(おたり)は7月の緑が眩しかったのを覚えています。周囲の山々の雄大な風景を楽しみ、温泉に入って、お釜で炊いた御膳を美味しく平らげ、地酒・小谷錦をお土産にしました。

山梨県の花かげの里まきおかでは、巨峰の大きさと甘さに感動し、翌年も出かけるほど気に入りました。道を挟んだ向かいの「いろり」というお店のほうとうどんが最高の味でした。同じく山梨県の甲斐大和からどうしに向かう途中の山越えでは、突然見えた富士山に感激し「すごいね!すごいね!」と連呼していました。

群馬県上野への道中では紅葉と川を流れる水の色に立ち止まって写真を撮りました。お蕎麦を食べて木工細工の写真立てを買いました。翌年には子供と一緒に紅葉狩りに出かけ、近くの日帰り温泉を楽しみました。

栃木県では、湯西川で熱いお風呂に入り、冷たいおろし蕎麦をいただきました。千葉県くりもと紅小町の郷では、もちろん4種類のサツマイモの食べ比べを楽しみました。

125カ所を綴ったページには、年月日と食べたもの・買ったもの、感じたことの感想が書いてあります。最後のスタンプを押した後、ハガキを送って、ゆったりコース(期限設定無し)のスタンプと認定証をいただきました。主人の運転で巡ったスタンプラリーでしたが、なぜか認定証は私の名前のみで届きました。主人の名前がなかったのです...。「俺の名前は?俺が運転してたのに...」と言われてしまいました。感謝の気持ちを伝え、家族みんなで打ち上げをして主人の労を讃えました。

いつの間にか年を重ね50代になりました。子供達は、親より友達付き合いが多くなり、少し寂しくも感じられます。私も主人もそれぞれに『向き合い共に時間を過ごしてくれるのは誰か?』と考えた時に、お互いを思い合っていると感じます。仕事に追われ、それぞれに責任のある立場となり、切り替えが必要だと考えている時に会った1冊のスタンプブック『関東道の駅』は、私たち夫婦を新しい発見と感動へと導いてくれました。そして改めて主人に感謝し家族に感謝することができました。

「さて、お父さん!次は何をしましょうか...?」
「次回はあなたの名前でハガキを出しますね♥」



キレイにコーディネートされた認定証を持って記念撮影。
関東『道の駅』ホームページ➡www.kanto-michinoeki.jp

ADVERTISING

院内・院外からの広告を受付けております。

●医事課・健診担当からのお知らせ

6月から行田市特定健診がはじまっています！



ストレス社会といわれているこの世の中、病気も気付かない間に進行しているかもしれません。早期発見・予防をするためにもぜひ健康診断を！

当院では地域の皆さまの健康を守るため、医療・介護に続き「予防医学」の充実を図っております。各種健康診断、人間ドック、脳ドックなど、健診のことならどんなことでもお気軽にご相談ください。

- 保険特定健診（国保・社保）
- 一般健診（個人・企業含む）
- 人間ドック、脳ドック
- がん・脳梗塞・心筋梗塞等のリスクスクリーニングなど

※まずは TEL:048-552-1111 (医事課・健診担当)までお電話ください。

※各種健康診断等は、「予約優先」となっております。ご予約をお待ちしております。[医事課・健診担当]

●検査科からのお知らせ

軽度認知障害の血液検査『MCI スクリーニング検査』を始めました。

アルツハイマー型認知症の前段階である軽度認知障害（MCI）の兆候を早期発見する検査です。軽度認知障害（MCI）とは、健常者と認知症の中間段階を指します。日常生活に支障はありませんが、そのまま経過すると約5年で半数以上が認知症に進行するといわれています。

▶こんな方におすすめします！

- 50歳以上の方 ... 認知症が不安。
- 最近、もの忘れが増えてきた ...
- 親や家族の様子少し変わった気がする ...
- 肥満や糖尿病など生活習慣病の恐れがある ...

※検査は当院にて採血のみです。医事課にお申込みください。検査料金 20,000 円（税別）。

※詳しくは院内に置いてあるパンフレットをご参照ください。[株式会社 保健科学東日本]

●感染対策委員会からのお知らせ

いつでも。どこでも。正しく実践。手指衛生。

当院では感染防止対策として、携帯型手指消毒を導入しました。

●手指衛生5つのポイント

1. 患者さまへの接触前
2. 清潔操作の前
3. 血液・体液に曝露された恐れのある時
4. 患者さまへの接触後
5. 患者周囲環境への接触後

[感染対策委員会 / P7に関連記事あり]

